

法燈を高く掲げて

—— 全國佛教保育大會の記 ——

内 山 憲 尙

日本佛教保育協會の創立は古く、昭和の始めであつた。

當時「佛教保育」という機關誌も出して、保育の研究に精進していた。これの成立に當つては、故堀綠羊（信元）君のお骨折りを感ぜなければならぬ。地下に合掌する。

結成後數年してから、保育講習會を始めた。戰爭中三回ばかり休んだが毎夏繼續して、本年は十四回の講習會を開いた。これについては、關岡賢一、青柳義智代、賀來琢磨の皆様方の御盡力によるものである。

かくの如く仕事はして來ていたが、もと／＼東京中心であつて、盛り上る力によつて生れたと云うよりは、盛り上がらせた力によつて成立したといつていゝのであつた。

永らく、會長だつた、安藤正純氏は引退されるし、副會長だつた關寛之氏は故郷へ疎開されたまゝであつたのと、戰爭中休止状態になつていたので、昭和二十一年夏新しく組織を變えて、會長に椎尾辨匡博士をお願いした。昭和二十二年十一月全國的な總會を開いて、内山憲尙が理事長

に推され、翌二十三年は青柳義智代氏理事長となつた。

終戦後、佛教關係の幼稚園、保育所の設立されるものが次第に多く、しかし、その縦横の連絡なきため、いろ／＼な點で不便があつて「何とか早く全國の集りが生れるとよい」と云う聲が隨所から起つて來た。

○

この多年の要望に應えて、全國佛教保育大會が持たれることになつたのである。勿論昭和五年六年頃に二度ばかり開かれたが、その後十數年間そのまゝになつていたので、本年のものを改めて、第一回と銘を打つことになり、昭和二十五年十月六日七日、日蓮宗總本山たる、身延山の久遠寺に於て開かれたのである。

主催は日本佛教保育協會、後援は山梨縣、甲府市、身延町、久遠寺、日本佛教會である。

十月六日十時半より本多玄洲氏司會の下に聖地身延の地久遠寺の大廣間で大會の幕は切つて落された。集る者二百

數十名、北は仙臺、富山、南は、岡山、廣島、九州からの参加である。

一 開會の辭

岩間 松榮

二 讃歌「法の御山」

三 三寶禮

藤平 賢策

四 保育歌「花のおさなご」(一番)

五 經過報告

内山 憲尙

六 挨拶

岩本 勝俊

七 地元挨拶

増田 宜輪

八 祝辭

深見日圓法主

九 保育歌「花のおさなご」(二番)

山梨縣知事 甲府市長 身延町長 日本佛教會

かくて總會に移る。山内勇仙氏の司會で議長高橋活洲氏副議長松井圓戒氏岩間松榮氏が選出された。

總會議案

1 日本佛教保育協會規約改正の件

2 役員改選の件

議事に入る、規約について大分時間をとつたので、内山憲尙、四氏の委員をあげて委員附託となる。

○ 午後から協議會に入り、議長に朝元廣信氏、副議長に山田顯達氏鶴見瑞弘氏が選出された。

協議事項

一 佛教保育の組織強化の件(東京)

各府縣に支部を設置すること、東京に本部を置き連絡を計ること。

二 佛教保育歌の制定の件(神奈川)

一般保育者に懸賞募集をして、その中から専門の人に選んで貰うこと、方法は本部一任。

三、四、各宗當局で保育事業従事者の養成及び事業助成を願いたし(神奈川、山梨)

幼稚園教諭、保育所保母共にその需要多く、人がなくつてこまつている。ことに佛教的信念を持つてゐる者がほしい。

本部から關係當局へ請願して貰いたい。

五、寺院に於ける保育事業と社會福祉事業基本法との關係について(山梨)

特に宗教法人と今度生れる社會事業法人との關係等について論議を重ねた。

六、佛教保育憲章制定の件(兵庫)

佛教保育に従事する者の保育に對する態度や心構えを正しく示したもの、本部にその作製を一任。

七、普遍的にして最も適切なる佛教保育の實際について承りたし(京都)

これについてはいろいろな立場から論じ、又實際についても知りたいから、今後の座談會に於て充分のべさせて貰いたいと云うことになつた。

八、幼稚園と保育園は同一系統に依つて管理して欲しい(栃木)

これは非常に大きな問題でもあり、從來、全國保育大會で

も論ぜられた問題でもあり、且つ説明者缺席のため次回に持ちこすこととした。

九「佛教文化」發行の件（静岡）

必要とは思ふが、當分組織強化するまで既刊の佛教關係書籍を以て代用すること。

十、寺院設立の保育所を市町村公設に強制管理せしめんとする傾向各所に見受けられるに對する對策（廣島）

地方事情であるから縣當局へ話し合い私立には私立、佛教には佛教の特異性があることを談合し合つて、對立的な氣分をさけて、かゝることのない様にすること。

十一、平衛交附金中に含まるる措置費について（廣島）

各縣の様子を話し合う、かくて午後四時半終了。

一同、院内參觀後、玉山英光氏の讃歌指導があつて、レクリエーションとして映畫があつた。

○

當夜、七時半から十時まで、田中屋旅館の廣間で宗教教育の座談會を開く、「宗教々育と宗派教育」本尊の問題について「讃佛歌と遊戲」等について熱烈な討議を續けた。

第二日目の七日は午前五時に久遠寺の朝の勤行に參列、八十二才の老管長以下式衆後四十名の嚴肅な禮拜一時間あまり。七時から、閉會式を本多玄州氏司會の下に、島田堯存氏の挨拶、讃歌、四弘誓願、加賀美日聰氏の地元挨拶に對し、年長者廣島の星月氏の謝辭あり、保育歌「花のおさなご」を齊唱し、笠原秀定氏の閉會の辭で總會と協議會を

閉ちて、直ちに九時四十分の電車で、甲府に向う。

葡萄狩のレクリエーションに移る。甲府驛から貸切車で勝沼に到り、パノラム園に十二時半頃に着いた、美しい葡萄棚の下に辨當を擴げて、たのしい一時が展開される。

二時の迎えの自動車で甲府驛着驛前で最後の感謝と大會の萬歳を三唱し無事に第一回全國佛教保育大會は終了した

○

大會を通じて特に感じたことは、なごやかな空氣と、保育への精進の氣持ちである。

同じ道を歩む者がお互に手をたづさえて進んで行くと云うことは必要なことである。

佛教關係の保育者が一堂に會し、お互に話し合うと云うことは、どんなによろこばしいことであるか、平素御無沙汰している人たちが二年目に一回相逢うことだけでも、うれしいではないか、園長も教諭も保母も同じ食事をとり同じ宿に寝て、同じレクリエーションに打ち興じることもしい光景である。

協會が大會を持つことは決して他のどの團體に對しての對抗を考慮に入るものではない。出来るだけ仲よくして行きたいのである。幼稚園も保育所も、公立も私立も保育の道に何の變りもない、大きな氣持ち——（佛教では大乘的と云う）——でガツチリ手を組んで日本の幼児のためにつくしたい。すべての人たちと握手して行きたい。